

2003A

研究テーマ名	ウォークابل・シティ評価手法の開発
背景と目的	<p>日本では急激な人口減少、超高齢化を迎え、都市のコンパクト化が進められている。しかし、ただ単に都市をコンパクトにすれば良いわけではなく、都市の活力を維持し、魅力を向上させるために「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市再生が 2019 年に国土交通省に設置された懇談会で提唱され、2020 年度から「まちなかウォークابل推進プログラム」がスタートすることになった。既に、全国で 229 の都市がウォークابل推進都市として名乗りを上げている。本研究はウォークابلな都市（ウォークابل・シティ）を横断的に評価する手法を明らかにすることを目的とする。欧米の先進事例を参考に評価手法を検討し、日本の都市に適用することを目指す。</p>
期待される成果	<p>国土交通省が進める「まちなかウォークابل推進プログラム」は新しい政策であるが、これまで低炭素まちづくりや立地適正化計画、都市緑地法改正など、様々な関連の政策が展開してきている。これらが目指しているのは、都市のコンパクト化、中心市街地の活性化、低炭素化であり、最終的には環境と調和の取れた暮らしやすいまちづくりを目指している。同様の取組は海外でも膨大な数に及び、環境、エネルギー、健康福祉、交通、経済、観光などの視点から進められている。本研究では、3 年目までにウォークابل・シティを分野横断的、統合的に評価する手法を開発する。統合的な評価手法は未だ確立されておらず、先進性がある。また、現時点では各都市の自己申告によって推進が謳われているが、これから進められていく政策の評価に实际的に貢献できる。1 年目には、国内外の関連する事例を網羅的に調査し、同時に北米の先進事例を調査する。2 年目には、事例調査に基づき、評価方法を整理し、同時にヨーロッパの先進事例を調査する予定である。</p>